

開催地名：北海道苫小牧市	
開催日時	令和4年12月20日（火） 14：00 ～ 15：30
開催場所	苫小牧市文化会館
語り部	山縣 嘉恵 （宮城県東松島市）
参加者	苫小牧市町内会連合会役員、市職員 84名
開催経緯	<p>本市は太平洋に面し、また活火山である樽前山を有していることから、各町内会では、津波や火山噴火を想定した防災訓練を積極的に実施し、地域の防災力の強化や防災意識の向上を図っている。令和2年4月に内閣府より「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル」（概要報告）が公表され、北海道も令和3年7月に地震・津波に係わる被害想定及び減災目標を策定し発表された。地域（町内会）としても、災害時の対応について、改めて考えなくてはならないが、過去に大規模で広域な津波災害の経験がないことから、東日本大震災を経験された語り部を介し、大震災の教訓や日頃の備えについて講演をいただき、今後の防災活動や地域防災力の向上の参考としたい。</p>
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私が住む東松島市は、桃生郡矢本町と鳴瀬町の合併（平成の大合併）によって2005年に発足した。西側に松島町が隣接し、仙台市と石巻市の間に位置しており、海苔、牡蠣、米、野菜の生産が盛んである。</p> <p>2011年3月11日に発生した東日本大震災では、津波の襲来により、1,110人の犠牲者が発生した。そのうち震災関連死が66人、行方不明者が23人、消防団員の殉職者8人となっており、私が住む野蒜地区でも510人が犠牲となった。野蒜地区では、震災前に4,700人が暮らしていたが、現在は2,700人程度に減少している。震災後の暮らしは選択の連続で、仮設住宅もしくは「みなし仮設」、他地区への移住等の選択を経て、野蒜ヶ丘防災集団移転団地が設置されたが、集団移転に応じた住民は約1,300人となっている。</p> <p>（2）東日本大震災発生時の避難の状況</p> <p>地震発生時、私は自宅に、息子は小学校に、義母は自宅の離れに、夫は勤務先にいた。2003年にあった宮城県沖地震（宮城県北部沖地震）後、我が家では家具をL字型金具で固定したり、家具の上にモノを置かないことを徹底していたので、幸いにして家具の転倒等はなかったが、経験したことのない大きな揺れが長く続いた。津波が来ることは予想していたが、1960年のチリ地震津波同様、到達まで時間的余裕があると誤った認識を持っていたために、義母を置いてまずは息子を迎えに小学校に向かった。そして息子を引取って一旦地区センターに待たせておき、義母を自宅に迎えに行き、そして地区センターで3人一緒に合流してから避難所である野蒜小学校の体育館に向かった。</p> <p>野蒜地区は、西から東に東名運河が流れており、避難所の野蒜小学校は運河の北側、自宅は南側（海側）にあった。野蒜小学校までは野蒜海岸から直線距離で1.2キロ（自宅までは600メートル）あり、この運河の北側までは津波が来ないと思い込んでいた。避難所に着いた私たちは、既に体育館は避難してきた住民でいっぱいだったため、中に入れずにいた。その時、海側から黒い津波が運河を越えて小学校に向かってるのが見えたため、</p>

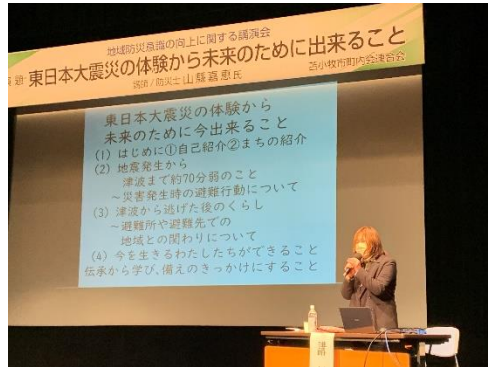
校舎に向かって走った。私たちは津波から免れたが、体育館にいた避難者の一部に犠牲者が出てしまった。

(3) まとめ

この震災を経験して感じた思いは3つある。1つ目は何も知らなかったという「反省」である。津波避難に適したところは、当然標高の高いところであるので、私たちは校舎の2階以上や北西の山、市道東側の峠等に逃げるべきであったのだ。2つ目は、自分たちは助かったが、できればみんなで助かりたかったという「後悔」である。私たちは、校舎の2階以上に避難するという津波を想定した防災訓練を、学校や地域と連携して実施したことがなかった。避難所と地域が連携して防災訓練を行うこと、そして避難マニュアルを共有することは必要である。そして3つ目は、災害が起こる前にやれることも多いという「気付き」である。是非みなさんも、避難行動についての以下の7つのポイントを家族で確認していただきたい。

- ・家の中の地震対策が有効
- ・避難場所は一つだけでなく複数把握
- ・災害が起きたら、待たせない、待たない、戻らないことが重要
- ・避難場所は災害により使えないところもあることを知っておく
- ・地域の人と日頃からのあいさつが大切（顔の見える関係性の構築）
- ・車での避難も想定した訓練も必要
- ・学校と地域の連携した訓練やマニュアルの確認・共有も必要

今を生きる私たちが未来のためにできることは、伝承していくことであり、伝承から学び、行動を起こすことである。伝承が、命を救う備えをすることのきっかけになることを願いたい。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、災害発生時の避難の状況、地域での関わり的重要性、平常時の災害の備えや心構えについてわかりやすくお話しいただいた。本日の内容を防災活動において参考にするとともに、自主防災組織連合会との連携や、HP や広報紙による啓発活動の推進について強化していきたい。